

令和8年3月9日

三里地区

地区別事前復興まちづくり計画
ワークショップ資料

目 次

ワークショップの進め方	P2
第2回ワークショップの振り返り（意見交換1）	P4
（最終案）復興の目指すべき姿＝ビジョンについて	P7
第2回ワークショップの振り返り（意見交換2）	P8
最終復興パターン（案）について	P15
第2回ワークショップの振り返り（ワーク4）	P17
ワーク5：災害が起こる前からできることを考えてみよう！	P19
ワークショップを終えて	P20

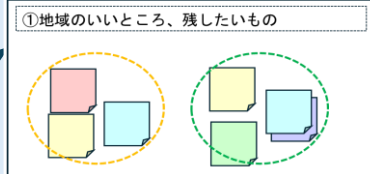
ワークショップの進め方（全体）

R7年9月8日

第1回ワークショップ
(計100分（発表時間込み）)

- ・事前復興まちづくり計画の目的 (10分)
- ・地区の現状と課題を説明

ワーク1

地区のいいところ・残したいもの
困っていること (25分)

Point
被災後の
「ビジョン=目指すべき姿」
へつなげる

- ・復興パターンの概要説明 (10分)

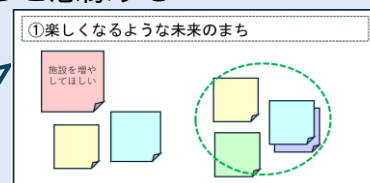
ワーク2

復興パターンについて感想 (25分)

復興パターン	1案 移転対応案	2案 現地再建案
ポイント	移転地区の新たな空間が想定される。災害時の避難場所として活用できる。移転先は、市街地開発局と三島中学校跡地を予定。	・移転先から避難場所とすることを目的とする。移転先は、市街地開発局と三島中学校跡地を予定。
活用事業	・防災拠点としての活用 ・防災拠点としての活用 ・防災拠点としての活用	・防災拠点としての活用 ・防災拠点としての活用 ・防災拠点としての活用
メリット	・安全な場所への移転による、生命や財産を守る。移転先は、市街地開発局と三島中学校跡地を予定。	・移転先から避難場所とすることを目的とする。移転先は、市街地開発局と三島中学校跡地を予定。
デメリット	・市街地開発局の活用 ・市街地開発局の活用 ・市街地開発局の活用	・市街地開発局の活用 ・市街地開発局の活用 ・市街地開発局の活用
期間比較	○	△
費用比較	○	△

Point
復興パターンに対する意見を述べてもらい
第2回目に修正案を提示

ワーク3

楽しくなるような未来の
まちを想像する (25分)

Point
ゾーニングに対する意見を引き出す

- ・まとめ (5分)

目標

自分の地区の特徴を知ってもらい、
復興パターンの意見をもらう

R7年12月16日

第2回ワークショップ
(計100分)

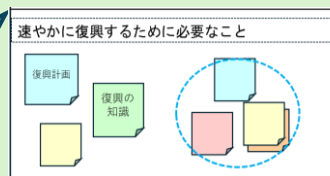
- ・第1回ワークショップ振り返り (ワーク1、ワーク3) (15分)
- ・目指すべき姿(案)の提示 (25分発表込み)
 - 意見交換1
- ・第1回ワークショップ振り返り (ワーク2)
 - 意見交換2
- ・修正復興パターン案の提示 (説明10分 ワーク20分 発表5分)

ワーク4

速やかに復興するために必要なこと (20分)

Point

- ・被災後の自立再建を意識してもらう
- ・復興でのすべきことを知ってもらい復興中の活力につなげる
- ・まとめ (5分)



目標

復興ビジョンを取りまとめ、修正復興
パターンの意見をもらう第3回ワークショップ
(計90分)

- ・第2回ワークショップ振り返り (意見交換1)
- ・最終目指すべき姿(案)の提示
- ・第2回ワークショップ振り返り (意見交換2)
- ・最終復興パターン案の提示
 - 意見交換3 (40分)
- ・第2回ワークショップ振り返り (ワーク4)

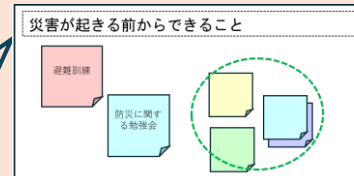
ワーク5

災害が起きる前からできること (40分 発表込み)

Point

防災意識の向上
地域での防災活動の啓発

- ・まとめ (10分)



目標

復興パターンの取りまとめ

地区別事前復興まちづくり計画とは？

被災後、早急に復興が進められるように
復興パターン・土地利用の選択肢をあらかじめ用意しておく

次世代へバトンタッチ!!



被災後

被災状況に応じて復興パターン・土地利用を選択



ワークショップの進め方（第3回）

①第2回目の振り返り（意見交換1）

（最終案）地区の目指すべき姿＝ビジョンについて



②第2回目の振り返り（意見交換2）

最終復興パターン案の提示



③意見交換3：地区別事前復興まちづくり計画(三里地区)について

④第2回目の振り返り（ワーク4）

ワーク5：災害前に事前にできること



⑤まとめ

第2回ワークショップの振り返り（意見交換1）

意見交換1 地区の目指すべき姿＝ビジョンについて

案1 （ワーク1～3の意見を踏まえた案） 「資源」を主軸とする案

『海・なりわい・歴史の魅力に溢れた 住みよい安心と絆のまち』

災害に強い良好な生活環境を備えるとともに、海とともに形成された活力ある地域産業や歴史・文化等の資源を生かし、工業団地や港・園芸農業の再生、賑わいある臨海空間の形成など災害に強く活力と魅力あるまちづくりにより、人々が再び集まり、交流し合う温かいコミュニティの形成を目指します。

案2 （ワーク1～3の意見を踏まえた案） 「防災」を主軸とする案

『人・海・歴史が繋がる 災害に強く、住み続けたくなるまち三里』

人と海、歴史を大切にする三里の魅力を活かし、誰もが安心して住み続けられるよう、防災力を高め、暮らしやすさと地域のつながりを次の世代へ受け継ぐまちを目指します。

案3 （ワーク1～3の意見を踏まえた案） 「コミュニティ」を主軸とする案

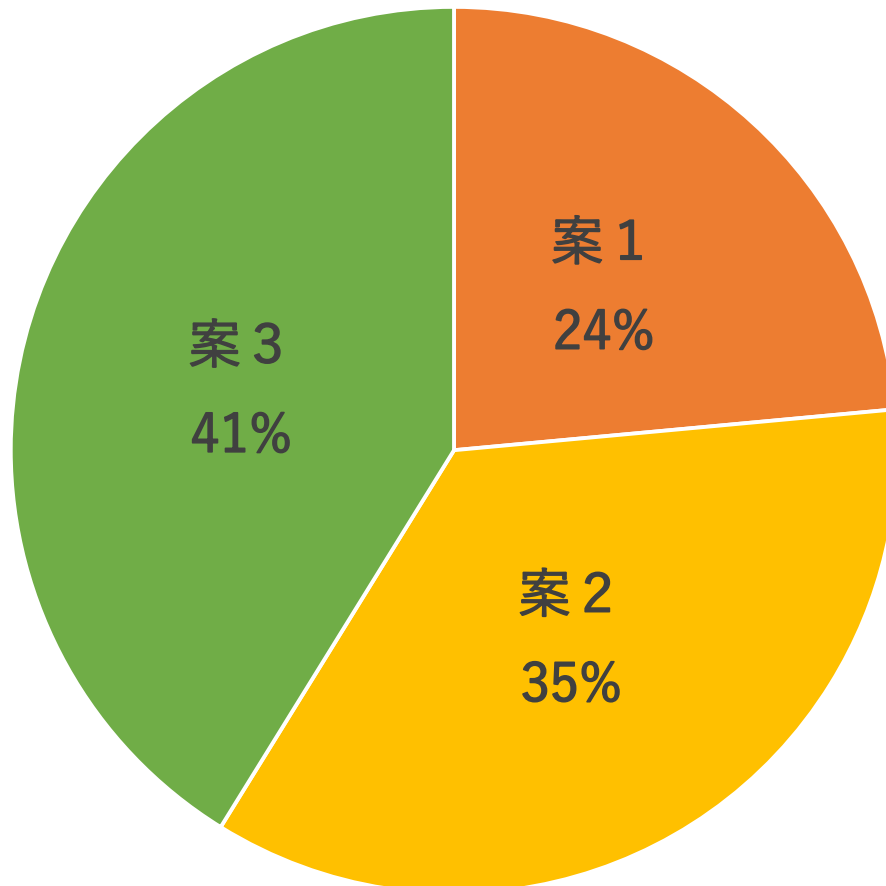
『自然と産業が調和し、人と地域が支え合う、安心を育むまち 三里』

三里地区に根付く農業や造船業、そして山と海の恵みに包まれた地域特性を生かしながら、防災力の強化と地域コミュニティのつながりを深めることで、誰もが安心して暮らし続けられる、調和と支え合いのあるまちを目指します。

意見交換1 地区の目指すべき姿＝ビジョンについて

意見集約結果

復興ビジョン評価



案1に対する意見

- ・若者に戻ってきてもらう、残ってもらうためにはなりわいの再生に力を入れていく必要がある
- ・なりわいの復興が今後の復興意欲につながる

案2に対する意見

- ・「防災」を主軸としたい
- ・次世代が**住み続けたいまちづくり**が大事
- ・**防災、減災**について常に意識できるようにすることが大事
- ・「**災害に強い**」というフレーズは外せない
- ・「**住み続けたいまち**」というフレーズが一番大事

案3に対する意見

- ・「資源」や「防災」は「**コミュニティ**」の根幹があってこそ強くなっていくものだと思う
- ・隣近所、地域での**つながり**が大事
- ・日々の地域の**つながり**から**防災**につなげたい

意見交換1 地区の目指すべき姿＝ビジョンについて

意見集約結果

その他復興ビジョンに関する意見

こどもでも分かりやすく！

- ・「復興ビジョン」にふりがなをふっておいたほうが良い
- ・小学生でも分かるような言葉にしたほうが良い

難しいワード

「なりわい」「自然と産業が調和する」「安心を育む」

ぼうさい
防災



地域の特性を考慮してほしい！

- ・もっと三里らしさを出したい！
- ・海や自然を魅力としたスローガンにしたい
- ・「三里」というフレーズは種崎・仁井田地区のイメージがあるため、「三里」を消すか「三里・十津」に直したい



(最終案)三里地区 地区の目指すべき姿=ビジョンについて

【決定の経緯】

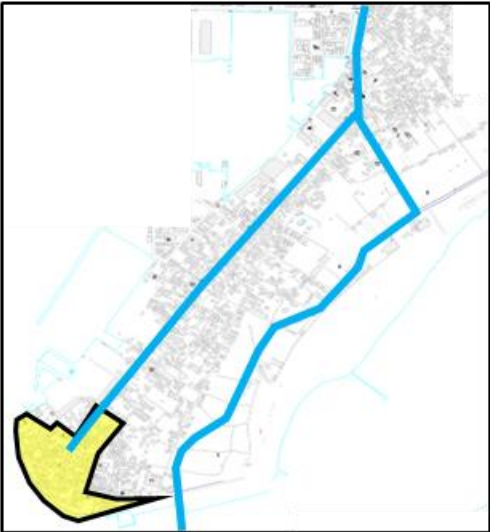
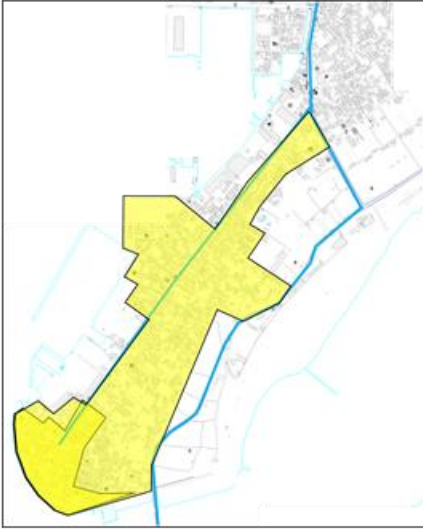
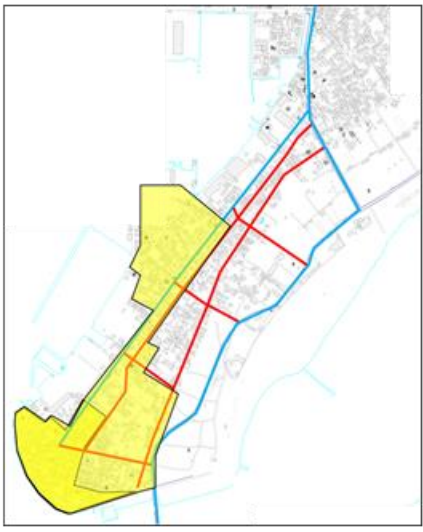
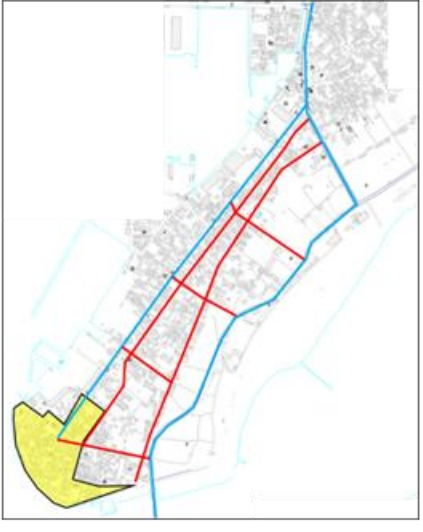
- ワークショップ等で最も多くの支持をいただいた「案3」をベースに、次点の「案2」でご意見が多かった「災害への強さ」も取り入れ、皆様の想いを一つにしました。
- 三里の誇りである「海」や「大地」、そして大切な「助け合い」。子供から大人まで、誰もが分かりやすく覚えられるこの言葉をつなぎ、私たちの目指すべき姿にしました。

『海と大地と助け合い ^{さいがい}災害に強く ずっと住みたいまち 』

地元の産業を支え、海水浴場として親しまれる「海」と、彩り豊かな花や野菜を育む「大地」。この二つの恵みを大切にしながら、日頃の地域の「つながり」を力に変え、いざという時に「助け合う」ことで、災害に負けない強いまちをつくります。
三里の良さを次の世代へつなぎ、誰もが誇りを持って「ずっと住みたい」と思える、温かい地域を目指します。

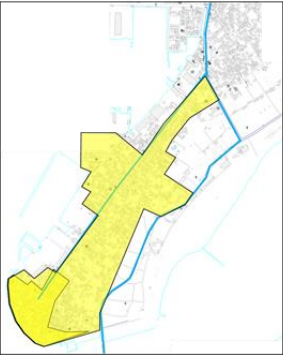
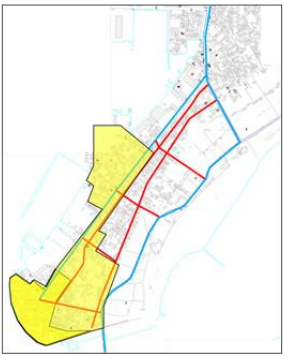
第2回ワークショップの振り返り(意見交換2)

意見交換2 復興パターン2案について意見を共有しましょう

1-A案(原案) 甚大被害エリア 嵩上げ型	1-B案 地区一体嵩上げ型	1-C案 浸水エリア一体嵩上げ型	1-D案 地区道路ネットワーク 形成型
甚大な津波被害想定地区の嵩上げ・土地区画整理	種崎地区全体を一体嵩上げ案・土地区画整理	種崎地区の浸水エリア全体を一体嵩上げ・土地区画整理 地区道路のネットワーク整備	甚大な津波被害想定地区の嵩上げ・土地区画整理 地区道路のネットワーク整備
  嵩上げ(区画整理事業)  県道	  嵩上げ(区画整理事業)  県道	  嵩上げ(区画整理事業)  市道 道路整備(4m)  県道	  嵩上げ(区画整理事業)  市道 道路整備(4m)  県道

意見交換2 復興パターン2案について意見を共有しましょう

修正復興パターンの意見

1-B案 地区一体嵩上げ型	1-C案 浸水エリア一体嵩上げ型	1-D案 地区道路ネットワーク 形成型
種崎地区全体を一体嵩上げ 案・土地区画整理	種崎地区の浸水エリア全体を一 体嵩上げ・土地区画整理 地区道路のネットワーク整備	甚大な津波被害想定地区の嵩 上げ・土地区画整理 地区道路のネットワーク整備
		
 嵩上げ（区画整理事業）  県道	 嵩上げ（区画整理事業）  県道	 嵩上げ（区画整理事業）  市道 道路整備（4m）  県道

B案

メリット

- ・一番安全で良い
- ・次世代のことを考えたらきれいな(安心できる)まちにしてほしい

デメリット

- ・範囲が広く影響が大きいため現実的に厳しいのではないかな
- ・被害が少ない建物もあるため、土地区画整理に時間がかかるのではないかな

C案

メリット

- ・B案より期間が早くて良い
- ・道路整備と浸水被害を守れるので良い

デメリット

- ・範囲が広く影響が大きいため現実的に厳しいのではないかな
- ・被害が少ない建物もあるため、土地区画整理に時間がかかるのではないかな

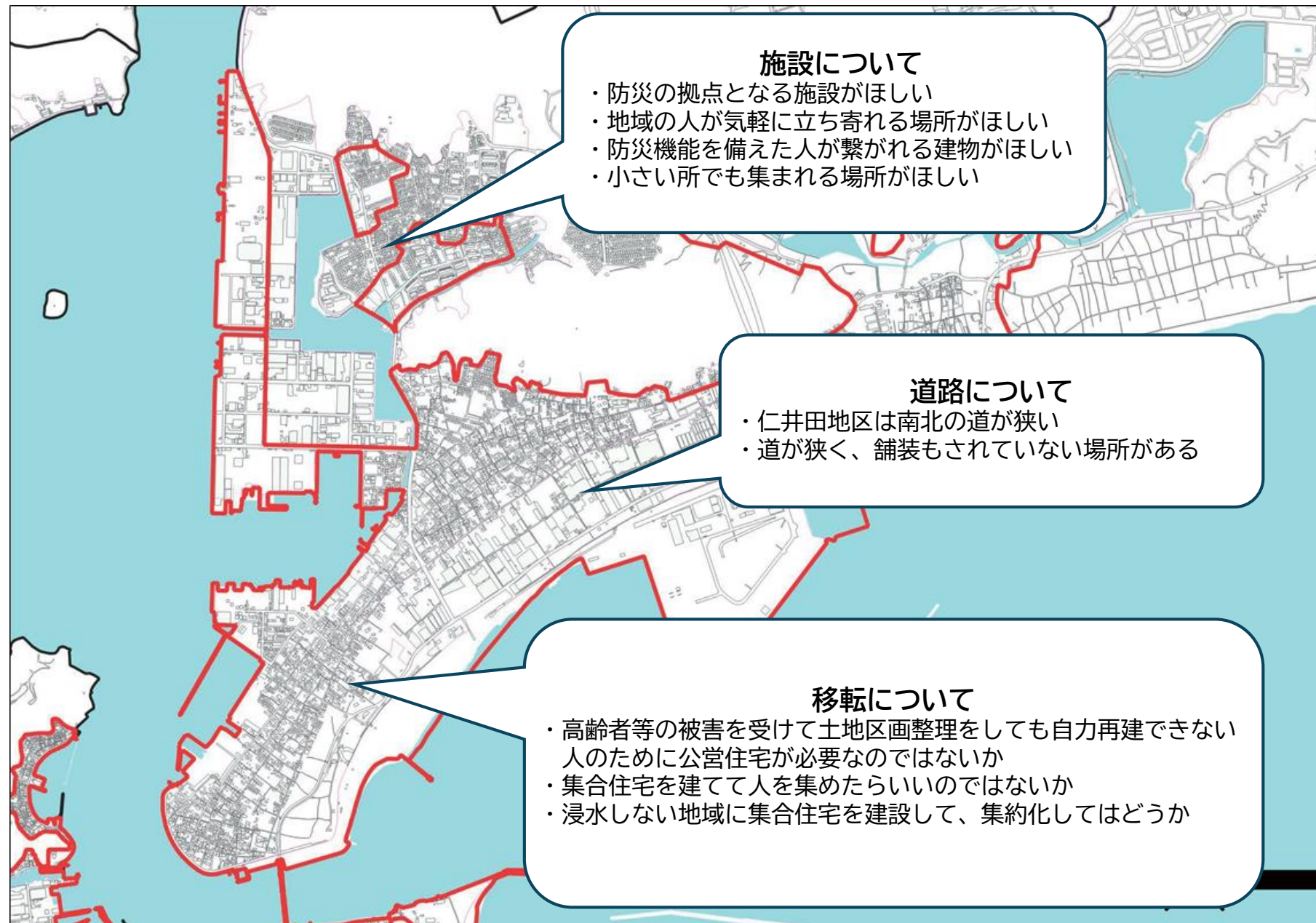
D案

メリット

- ・A案(原案)でも8年かかるため、早期復興を考えるとD案が良いと思う
- ・D案が現実的だと思う

意見交換2 復興パターン2案について意見を共有しましょう

それ以外の復興パターンに関する意見



意見交換2 復興パターン2案について意見を共有しましょう

その他意見回答について

	意見まとめ	回答
被害	十市川からの浸水想定はできているのか (十津地区)	十津導水トンネルからの浸水リスクについては、今回のシミュレーションでは細かな地形データが反映できず、考慮できていないのが現状です。(p.13～p.14参照)
移転	仁井田公園の移転先は湿地なので移転には適さないのではないか	移転先の整備に当たっては、必ず事前に詳細な地盤調査を行います。 調査結果をもとに、軟弱な地盤であればセメントで固める等の『地盤改良』を行い、災害時にも耐えうる十分な強度を確保できたことを確認してから、移転先として活用いたします。
土地 地区 画 整 理 事 業	土地区画整理をする際の空き家はどうか	空き家であっても個人の財産として守られるため、所有者に無断で解体されることはありません。必ず所有者に連絡を取り、今後の扱いを話し合います。 建物が道路予定地にかかるなど事業の支障になる場合は、所有者に「移転補償金」が支払われ、それを使って解体や移転を行うのが一般的です。
	土地区画整理範囲内にある被害を受けていない家が壊れていない場合は、その家を壊して再建することになるのか	被害がない家でも、道路や嵩上げ工事の範囲に入ると移転が必要になる場合がありますが、全て壊すわけではありません。新しい道路や公園の予定地と家が重ならなければ、そのまま残す「現地換地」が可能です。 やむを得ず解体する場合は、建築年数に応じた補償金が支払われます。住民の納得と合意を最優先に、慎重に進められます。
公共 施設	防災の拠点となる施設がほしい(十津地区)	現在の財政事情を踏まえると、直ちに新規拠点を整備することは厳しい状況にあります。しかし、復興時には被災した施設の統合や再編に加え、新たな施設の整備が必要となることが想定されます。 その際は、単なる復旧にとどまらず、行政機能や地域活動の場、さらには防災拠点機能も備えた拠点の整備についても、復興まちづくりの選択肢の一つとして検討される可能性があります。
道路 のみ	仁井田地区は南北の道が狭い(畑付近)	復興に伴う再整備(住宅再建や工事車両の通行、避難・防災面の確保等)が必要となる場合には、関係制度(狹隘道路整備事業等)の活用も含め、道路拡幅の可能性を検討し、関係機関と調整のうえ対応していきます。(p.12参照)

仁井田地区の道路拡幅

道路ネットワークの整備

イメージ図

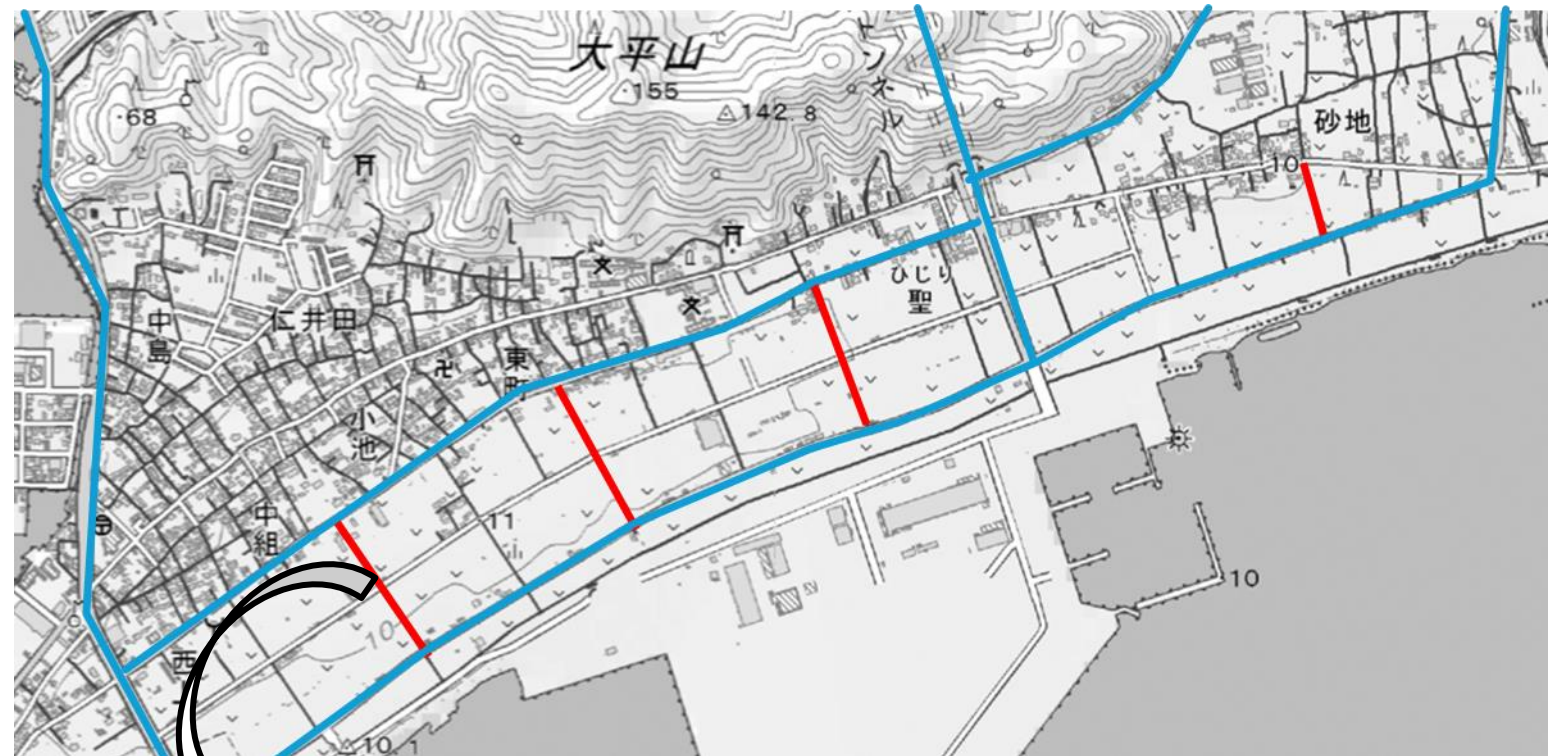
- 市道 道路整備（4m）
- 県道

【整備効果】

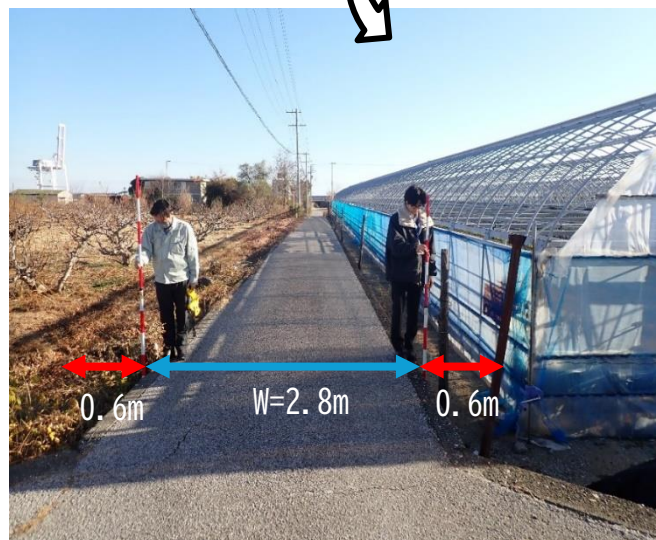
右地図の赤線路線は地区の主要道路であるため、現状幅員が4.00m未満の道路は4.00mへ拡幅し、居住環境・利便性等を向上させる。

【課題】

道路に隣接する地権者の敷地面積の減少やそれに伴う合意形成が必要となる。



- ↔ 現況道路幅員
- ↔ 道路拡幅延長



道路拡幅



意見交換2 復興パターン2案について意見を共有しましょう

十市川からの浸水想定



水門



十市川導水トンネル



ゲート



意見交換2 復興パターン2案について意見を共有しましょう

十市川からの浸水想定

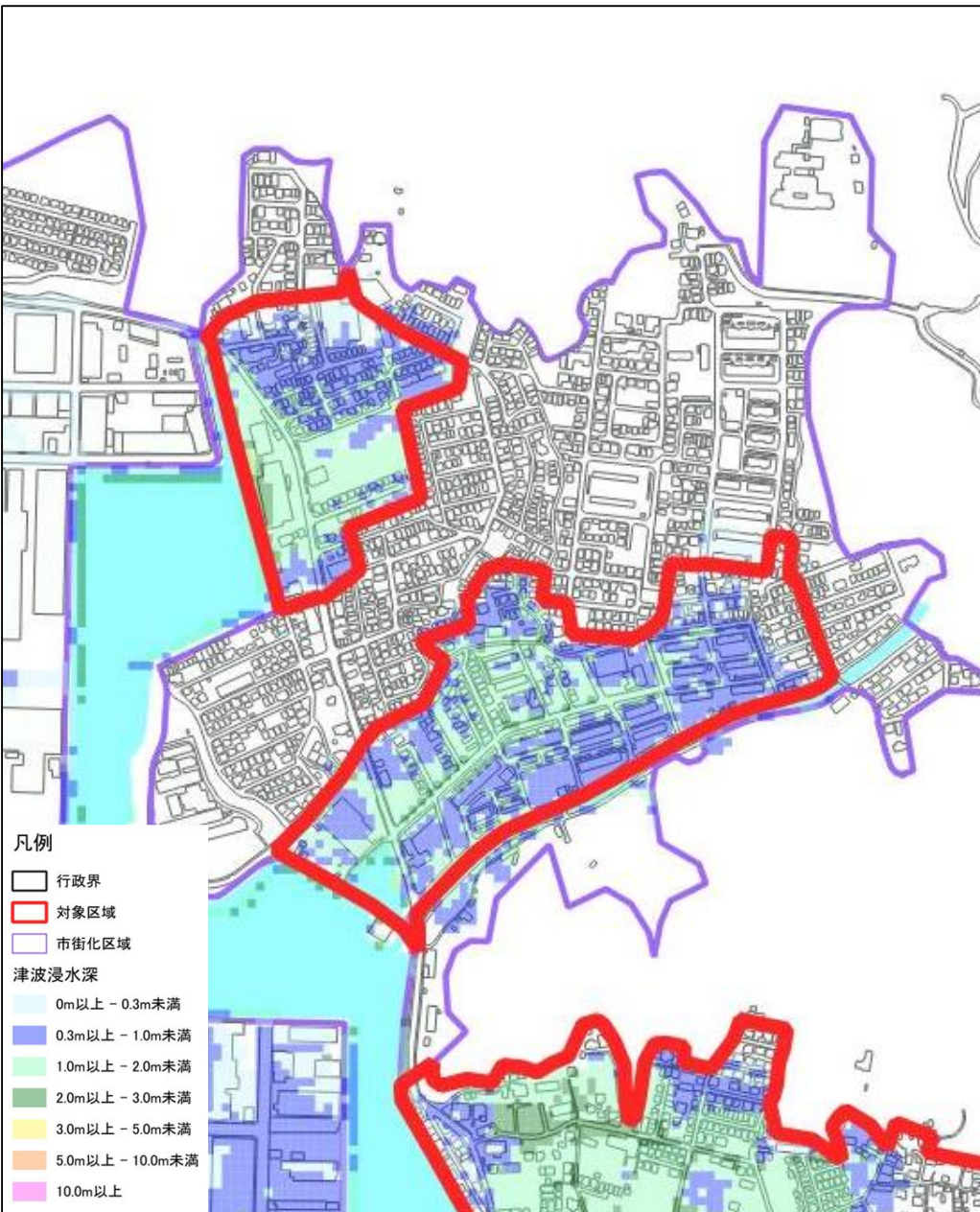
関係機関との協議結果

○津波シミュレーションが十市川からの
浸水深も考慮されているのか

・十津導水トンネルからの浸水リスクについては、今回のシミュレーションでは細かな地形データが反映できず、考慮できていないのが現状です。

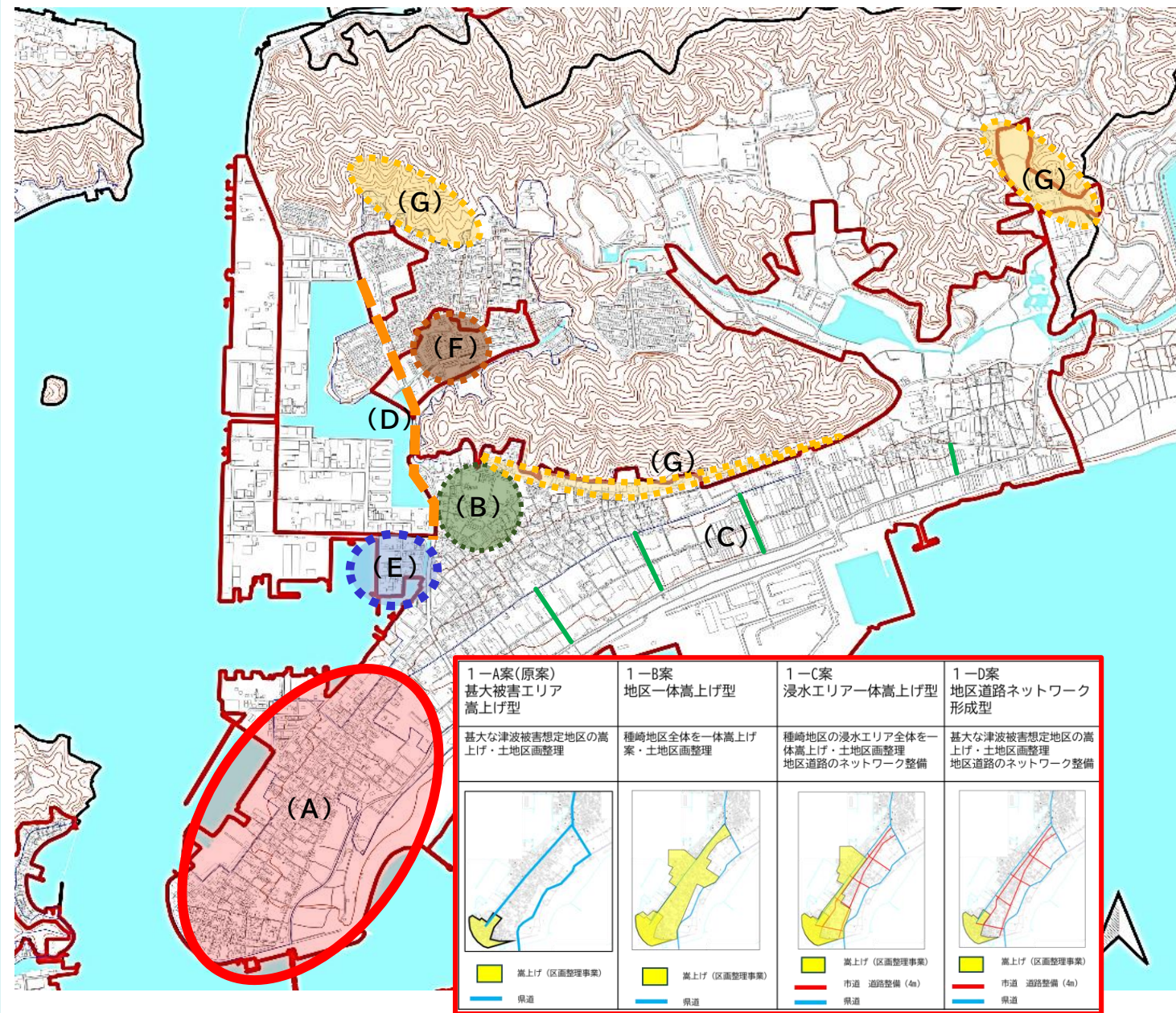
○十市川からの浸水について

・十市川の水は、十津排水機場を通じて海へ排水されています。地震発生時には、ゲートを閉めて海側からの津波を防ぎつつ、必要となればポンプで十市川の水を排水する仕組みです。



最終復興パターン(案)について

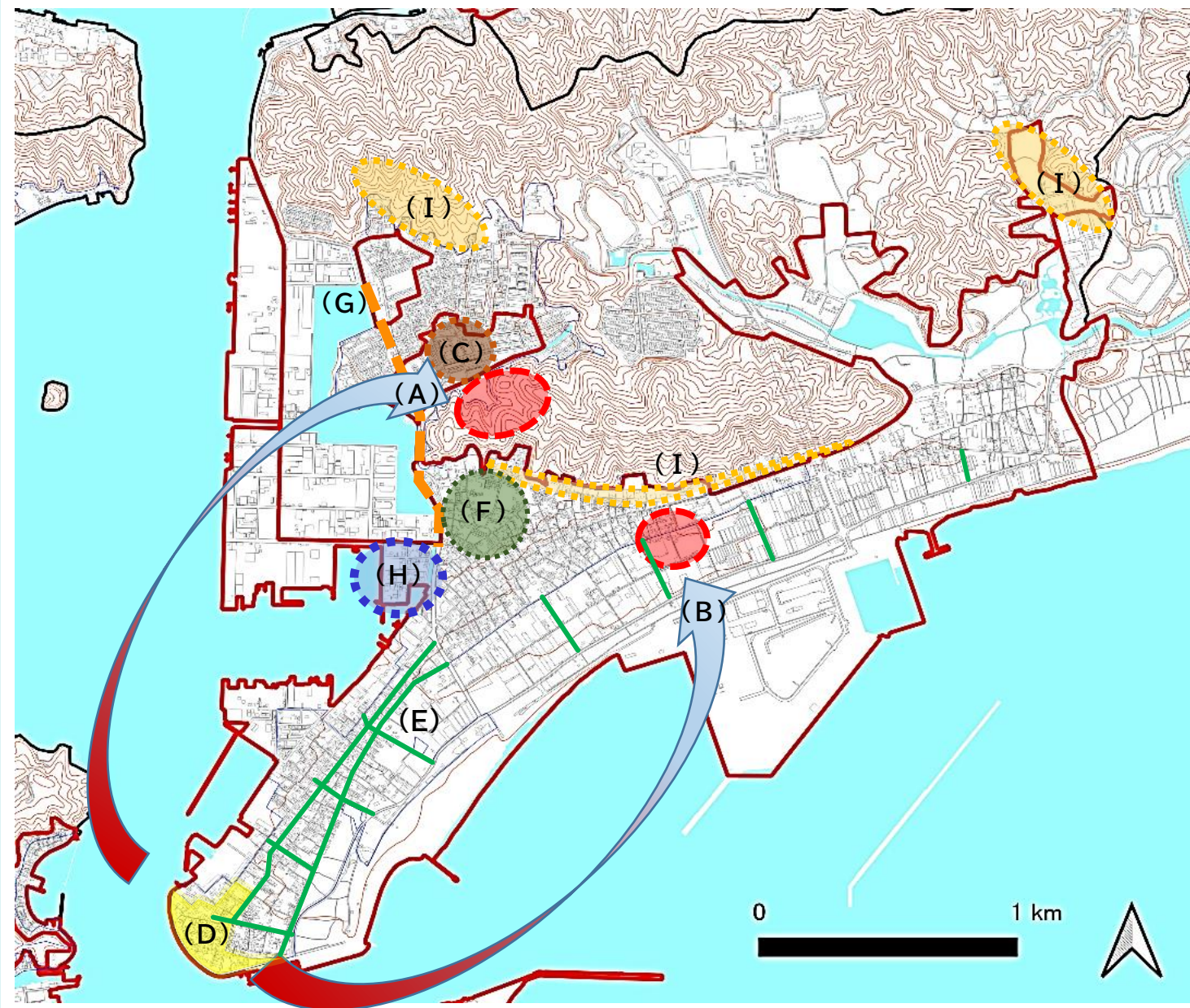
(最終案)嵩上げ案



- (A) 嵩上げ(土地区画整理事業)
+ 道路拡幅
- (B) 区画整理事業
- (C) 道路拡幅
- (D) 二線堤(県道35号)
- (E) 住工複合ゾーン
工事の共同化や住宅との複合化などの高度化利用
- (F) 市営住宅再編に伴う災害公営住宅の検討
防災機能を備えたふれあい施設の検討
- (G) 土砂災害対策

最終復興パターン(案)について

(最終案)移転対応案

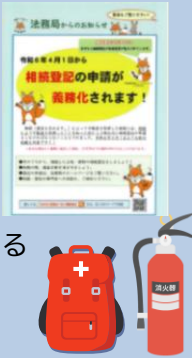


- (A) 高台移転
仁井田公園と市有地の山林
を活用した新市街地整備
- (B) 内陸移転
ふれあい広場と未利用の私有地
を活用した新市街地整備
- ※その他の移転
浸水エリア外への移転(地域内)
空き家、空き地を活用した移転の検討
- (C) 市営住宅再編に伴う災害公営住宅の検討
防災機能を備えたふれあい施設の検討
- (D) 移転元地(建築制限)
- (E) 道路拡幅
- (F) 区画整理事業
- (G) 二線堤(県道35号)
- (H) 住工複合ゾーン
- (I) 土砂災害対策

第2回ワークショップの振り返り（ワーク4）

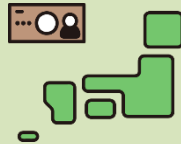
ワーク4

速やかに復興するために必要なことについて意見を共有しましょう。

	住民ができること		
災害への備え	自助 - 津波てんでんこの気持ちを持つ - 消火技術の取得 - 備えをしておく (備蓄・防災グッズ・整理整頓) - 土地の特徴を知るために、まち歩きに参加する - 相続登記をしておく 	共助 → 平時から地域でのつながりをつくっておく → 地域防災活動 → 地域活動への若い世代の参加 → 被災後の話し合い → 被災後の役割分担ができるようにしておく → 季節や時間を変えて、防災訓練を行う 	
被災時の助け合い	助け合い - 組織力、町内会のつながり - 行政に協力 - ボランティア活動(片付け等)	協調性 - 自分勝手なことを言わない - 住民同士の意見の一致	健康面 - 生き残る、健康でいる - 感染症予防(口腔ケア、水分補給)
復興まちづくり	知識 - 事前復興まちづくり計画の事業内容を知ってもらう - 行政から得た知識を周知する	助け合い 地元の中学生、高校生の力を借りる 	住民×行政 共通 - お風呂の設置、炊き出し - 仮設トイレの用意 - 地域の人が集まる場と整える - 住民と行政が一体となって復興に取り組む 

第2回ワークショップの振り返り（ワーク4）

ワーク4 速やかに復興するために必要なことについて意見を共有しましょう。

	行政にしてほしいこと		
災害への備え	情報・システム - 復興についての知識を持ち、住民に情報提供する - 民間アパートを含めて全世帯に情報が届くようにする - 他県の復興モデルケースの情報収集 - 誰がどこに住んでいるか、すぐにわかるシステムを行政間で共有しておく - 地震と津波の予測精度を上げる	ハード対策 - 避難路の維持管理 - ふれあいセンターを防災拠点として建て替えてほしい - 避難タワーをつくってほしい(十津地区) - 電柱の無電柱化(倒壊による道路寸断を防ぐ) - 道路の拡幅 	その他対策 - 減災対策、事前移転 - 空き家の解消 - 早期の学校再開に向けて、学校以外の避難所指定 - 消火BOXの設置 - 仮設トイレの保管場所を浸水しないところへ移してほしい
被災時の助け合い	連携  - 豪華客船と協定して、避難所とする - 県と市が連携する - 災害ボランティアセンター(日赤等)	状況把握 - 被災状況の把握を速やかに行う - より正確な防災情報を住民に伝える - 災害廃棄物の仮置き場の指定 - 住民の考えをよく把握する	健康・経済面  - 衣食住の安定的な供給 - 衛生管理、病人・怪我人の救護 - 復興までの生活を地区単位で補償してほしい
復興まちづくり	復旧 - ライフライン(水、電気、ガス)の復旧 - 道路等のインフラ整備 - 仮設住宅の整備 - がれきの撤去、ごみの処分 - 迅速な施設の復旧・住まいの再生	支援 - 各地区にどれだけ復興資金があてられるのか教えてほしい - 復興支援の情報提供 	まちづくり - 港の整備や観光を進めることも必要 - 複合施設の建設 - 海水浴場を県・市が中心になり運営してほしい - 豊かな自然の再生(松林・大平山) - 事前復興まちづくり計画を住民1人1人に周知する

ワーク5

災害が起こる前からできることを考えてみよう！

例)

- ・ 事前復興まちづくり計画の作成
- ・ 防災知識の習得
- ・ 防災訓練への参加
- ・ 家庭内防災対策 など



十津ふるさと会

7月～8月

- ・ 夏祭り納涼会
- ・ 夏休み体操教室

11月

- ・ 十津道クリーンアップ大作戦
- ・ みさとフェア

12月

- ・ 餅つき大会

2月

- ・ 節分豆まき大会

十津小学校区
防災連合会

10・11・2月

- ・ 草の根消火訓練

11月

- ・ みさとフェア 防災展示

2月

- ・ 十津ぼうさいれきし散歩



事前復興まちづくり計画ワークショップを終えて



皆さんに覚えておいてほしいこと

①「こんな三里にしたい！」という未来像の共有



災害後は「早く元に戻りたい」と焦るあまり、災害前の地域課題までそのまま引き継いでしまいがちです。だからこそ、平時から「将来の三里をどうしたいか」を共有しておくことが大切です。

今回話し合った「三里の魅力」や「楽しくなる未来の姿」を取り戻したいという思いは、いざという時に皆さんの心を支え、より良いまちへ復興するための「**最大のエネルギー**」になります。

②復興の道しるべ



今回のワークショップでは、被災後のまちの姿を疑似体験し、皆さんで意見を交わしました。この「事前に話し合った経験」こそが、いざという時の迷いを減らし、速やかな復興へ向かうための強力な「**道しるべ**」になります。将来いつ来るかわからない地震に備え、今回皆さんと話し合った大切なご意見は、実際の「**三里地区の復興計画**」へとしっかりと繋げていきます。

③未来の三里を救う「地域でのつながり」

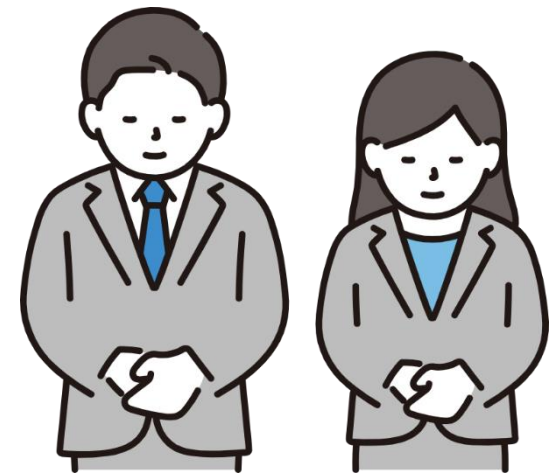


ハード面（建物や道路）の復旧も大事ですが、被災後、そして復興において最も大切なのは「**人とのつながり**」です。「事前復興」と聞くと難しい計画書を作るように思われがちですが、地域の孤立を防ぎ、住民主体で復興を進めるための究極の備えは、日々の挨拶やご近所づきあいにあります。

ワークショップが終わっても、今日ここで話し合ったことを大切に、地域の行事や防災訓練に顔を出すなど、「今日からできる小さな行動」が、未来の三里を救う大きな力になります。

事前復興まちづくり計画ワークショップを終えて

お忙しいところ事前復興まちづくり計画ワークショップにご参加いただきありがとうございました。



皆様からいただいた意見をもとに作成した「地区別事前復興まちづくり計画」は防災政策課ホームページに掲載されますのでよろしくお願いいたします。